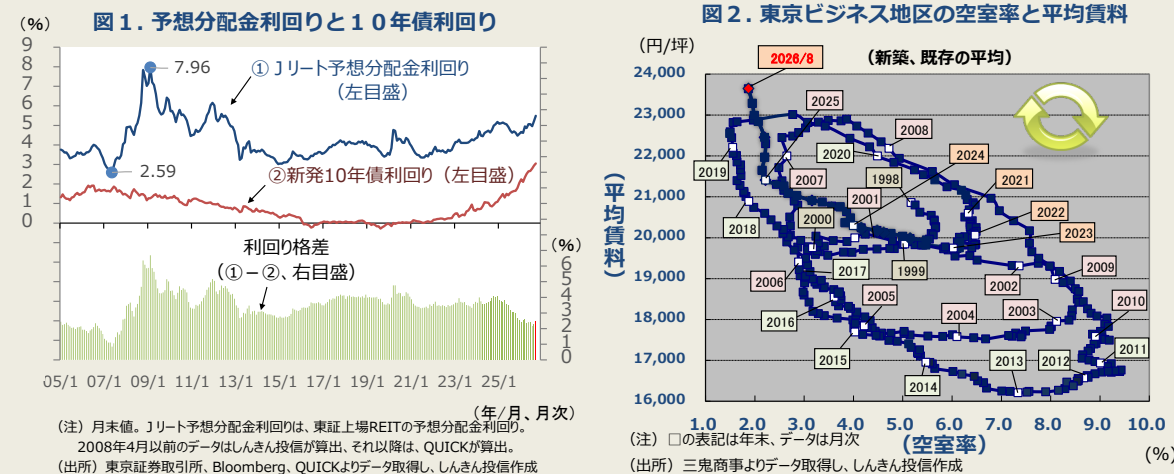


Jリート市場の現状と見通し : 2026年10月

9月のJリート市場は、月を通して軟調な展開が継続しました。複数の日銀関係者やバセセント米財務長官から日銀の利上げを支持する発言が相次いだことで、日銀の利上げペースの加速が意識されたことや、中東情勢悪化による原油価格上昇を背景に長期金利が3%台まで上昇したことが重しとなり、上旬から下落しました。月半ばにかけては、東証REIT指数(配当なし)は概ね1,750ポイント付近で推移したものの、その後は、日銀会合で政策金利が引き上げられたことに加え、原油価格の反発や堅調な経済指標を背景に米長期金利が上昇したことも相まって、国内長期金利が上昇したことが下押し圧力となり、Jリート市場は月末にかけて再び下落しました。

10月のJリート市場は、長期金利の動向や日銀の金融政策、中東情勢を確認しつつ、下値の目途を探る展開を想定しています。中東情勢については未だ先行きが見通しにくい状況であるほか、原油高や財政悪化懸念を背景に長期金利に上昇圧力がかかりやすい状況が続いています。日銀の利上げペースが加速する可能性も意識されており、Jリート市場の下押し圧力となりそうです。また、減少傾向にあった海外投資家からの売りが再び増加したことも懸念材料です。一方、東京都心のオフィス市場の空室率は2%を下回り、賃料上昇が加速するなど国内の不動産市場は良好です。金利が上昇する中でも支払利息の増加分を賃料上昇でカバーできるリートも着実に増加しています。分配金利回りが5%台半ばまで上昇しており、値下がりした局面では分配金利回りに着目した買いが入り、Jリート市場を支えることに期待したいところです。

Jリート関連指標



●主要指標 (2026年9月末時点)

時価総額	Jリート上場銘柄数	Jリート予想分配金利回り	新発10年債利回り
14兆9,064億円	58	5.493 %	3.050 %

（注）Jリート予想分配金利回りは、東証上場REITの予想分配金利回りで、QUICKが算出

東証REIT指数			東証REIT指数（用途別指数）						TOPIX		
前月末比			オフィス	前月末比	住宅	前月末比	商業・物流等	前月末比	前月末比		
配当なし	1,707.14	-4.3 %	1,673.06	-4.9 %	2,630.32	-4.2 %	2,092.99	-3.8 %	配当なし	4,108.65	-1.1 %
配当込み	4,733.98	-4.1 %							配当込み	7,396.93	-0.3 %

【出所】 Bloomberg、QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

前月の主なイベント

- ◆ 東証が発表した8月の投資部門別売買状況では、投信、事業法人は買い越し継続。個人は買い越しに転換。海外投資家は売り越し継続。銀行は売り越しに転換。
- ◆ 三鬼商事が発表した8月の東京都心のオフィス空室率は、1.87%と0.08ポイント低下。賃料は2万3,647円/坪と、前月比+1.55% (360円) 上昇。上昇は31か月連続
- ◆ 自己投資口取得: ラサルロジポート

今月の主な決算発表予定の投資法人

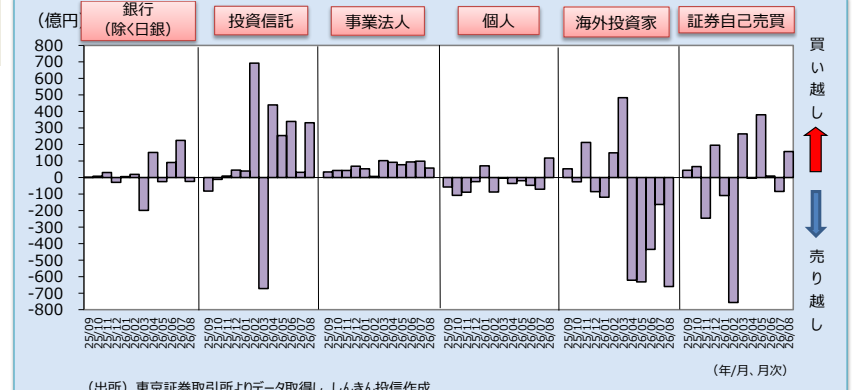
- 15日: GLP
- 16日: 野村不動産マスターファンド、サンケイリアルエステート
- 19日: 大和ハウスリート、ヒューリックリート、三菱地所物流リート
- 20日: 三井不動産アコモデーションファンド、福岡リート、ラサルロジポート
- 21日: Oneリート、日本都市ファンド
- 22日: オリックス不動産

東証REIT指数

【予想レンジ期間】(2026年10月~2027年9月)
【予想レンジ】東証REIT指数: 1,650~2,000



投資部門別売買状況



(2026.10.2)



<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

◆ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限3.3%(税抜3.0%)

◆ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

◆運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率1.628%(税抜年率1.48%)

◆その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。